

# 令和元年度 夏季頭頸部特別解剖実習 報告

2019年8月17日(土)・18日(日)

共催：横浜市立大学神経解剖学教室・麻酔科学教室

本学篤志検体団体「有美会」会員ならびにご遺族の皆様の崇高な御意思と御協力により、2日間の日程で夏季頭頸部特別解剖実習を開催いたしました。本実習は、今年度で11年目となりました。これまで御協力いただいた皆様方のお力添えに心より感謝いたします。

本実習は、「脳神経外科手術手技」の卒後教育および「学術的知識の探求」を目的として行っております。若手脳神経外科医を中心として、脳神経外科手術を安全に行うための微小解剖や手術到達法の基本手技について、実際の手術室と同様の手術用顕微鏡や手術機器を用いて学び、実地臨床に基づいた理解を深めました。



本年度は講師として、大阪市立大学脳神経外科学教授である大畑建治先生および筑波大学脳神経外科講師である阿久津博義先生にご指導いただきました。若手からベテランまで、新たな知識・技術の習得の場として代え難い経験となりました。

手術手技や解剖学的知識の学習だけでなく、医師としての初心に立ち返ることができた点においても有意義な実習であり、非常に貴重な機会になりました。御協力いただいた方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

本実習は、日本外科学会・日本解剖学会の「臨床医学の教育および研究における死体解剖ガイドライン」に則って開催され、事前に本学の専門委員会・倫理委員会の承認を得ています。